

## 離床という言葉の定義に関する調査報告

離床の定義についてアンケート調査を実施したので報告致します。

### 方法

2014年6月15日～22日に開催された日本離床研究会教育講座にてアンケートを実施

#### ●設問

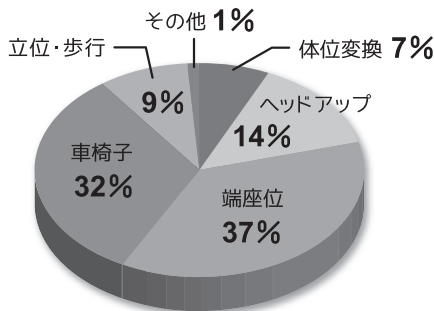
当会で「離床」という言葉は「臥床状態から日常生活動作の自立へと導く一連のコンセプト」と、流れを定義しています。しかし皆さんが臨床・研究で「離床」という言葉を見聞きしたときには、〇〇の動作をしたとき、とある点で思い浮かべることが多いと思います。さてあなたならば、離床のどの段階を思い浮かべますか？

#### ●回答選択肢

体位変換、ヘッドアップ、端座位、車椅子座位、立位・歩行、その他のいずれかにチェックをする

### 結果

- ・ アンケート回収総数 884
- ・ 有効アンケート総数 872



### 考察

設問の通り日本離床研究会の考える「離床」は“目的”ではなく、日常生活動作の自立→社会復帰へと導くための“手段”です。一方で、特に研究のためにデータを集積する際には、離床というある“点”を決める必要があります。離床という言葉は、寝床を離れること。(大辞林より)と辞書には書かれています。この言葉の通り寝床=ベッドから離れると考えると、アンケートの選択肢

で言えば車椅子座位となります。しかし背中が寝床から離れると考えれば、体位変換も立派な離床ではないか！と考える事もできます。

アンケート結果からは、端座位、車椅子座位を離床と捉える方が大勢を占めるということが明らかになりました。これはなかなか有用な情報です。

なぜならば、例えば皆さんが臨床で、「肺合併症を予防するために離床しましょう！」と呼びかけたとき、すると7割くらいのスタッフは「頑張って座位にしなきゃいけないのね」と思い浮かべるとのことです。しかしその内何割かのスタッフは、「忙しいのに車椅子に乗せている暇はないわね。」「大変そう」と感じて非協力的になってしまうかもしれません。

でもあなたは、体位変換やヘッドアップでも良いと思って、「離床しましょう」と呼びかけたのだとすれば、「清拭の後前傾側臥位にしてください」と提案した方が効果的かもしれません。

また、離床の効果や安全性について研究データを取るうと考えた場合、研究の方法(メソッド)として、「今回の研究では離床=〇〇と定義した」などの設定を明確にする必要があります。

この設定をどこにするかは研究者の自由ですが、より多くの方がイメージしやすい点(動作・姿勢)に設定すれば、その研究は、より多くの人の興味を引くでしょう。

普段使っている言葉、用語の印象は、同じ医療・福祉スタッフであっても人によって受け止め方が違うということは、あまり意識することはないかもしれませんが、実は臨床や研究でヒントなることが隠れています。

当会の考える「離床」とは、一連のコンセプトです。臨床的には、座位・立位・歩行はもちろんだ、全身状態が不安定でギリギリの症例を、体位変換やヘッドアップを検討して、実践していくことも「離床を行っているんだ！」という感覚をもって欲しいと考えています。

著者情報：飯田 祥 \* 黒田 智也 \* 曷川 元 \*  
\*日本離床研究会 学術研究部